

「全方位型の進路指導」で、生徒一人ひとりが幸せな未来を切り拓けるよう支援する

▶ 葛西南高校（東京・都立）

取材・文／笹原風花

高校入学時点での課題を抱える生徒、自己肯定感の低い生徒が多い背景には、中学校時代までの経験値不足があると前田先生は考える。

「部活にせよ勉強にせよ何かをやり抜いたという成功体験やポジティブな切り口で社会を知る体験など、経験の『引き出しへ』が足りていない生徒が多いと感じます。本人たちに原因があるのでなく、育ってきた環境によるところが大きいです。が、生徒は『どうせ自分なんて…』と思うがち。そうなると、新しいことへの挑戦にも消極的になってしまふし、引き出しがないがゆえに、自分には何が向いていて将来どんなことがしたいかを考えることも

1年次のインターーンシップで、「働く」のイメージを刷新する

難しくなる。結果として、進路を消去法で選んでしまうことになります。いやそうじゃないよ、若い君たちには可能性もチャンスもあるんだよ、やりたいことを見つけてがんばればそれを実現できるんだよ……」ということを訴え、本人たちに気づかせることから、本校の進路指導は始まります」

進路指導やキャリア教育の取組は、主に「総合的な探究の時間」のなかで進めている。1年次のテーマは、「働くことや職業・仕事について学ぶこと。生徒にどうては「働く＝生活するためのお金を稼ぐこと」という意識が強く、「仕方なくやるもの、つらいもの、面倒なもの」というネガティブなイメージがあるという。「お金を稼ぐための手段だけでなく、具体的にどんな業務やキャリアアップの道が

あるのかを知り、仕事の楽しさややりがい、誇り、働く意味や価値にも目を向けてほしい」と前田先生。そのための機会として、2月に全員を対象にした2日間のインターーンシップを実施している。

昨年度はコロナ禍の影響で実施できなかったが、例年、生徒を派遣する事業所は100ヵ所以上。事前学習（ツール1）を重ねたうえで、インターーンシップに臨む。最初こそ教員がつなぎ役を務める

進路指導の課題とテーマ

東京都江戸川区に位置する葛西南高校。市中にありつつも敷地は広く、施設・設備も充実しており、生徒たちは恵まれた環境で高校生活を送っている。「自ら判断し、律して行動する：自主」「豊かな創造力で未来を拓く：創造」「愛と責任感をはぐくむ：連帯」の教育目標のもと、教員は「チームかさん」を合言葉に一丸となって教育活動にあたっている。

生徒の進路は、大学・短大への進学が約3割、専門学校への進学が約4割、就職が約3割と多様で、進学・就職先もさまざまだ。さらに近年は、進学先の幅が以前にも増して広くなっている。生徒一人ひとりの希望や特性に応じた個別対応が求められるなか、「全方位型の進路指導」をモットーに、進路指導・キャリア教育を教育活動の軸に据えてきた。一方、卒業生の追跡調査により、離職者や中退者が少なからず存在することがわかつておらず、ミスマッチを減らすことが課題の一つとなっている。また、入学時点での学力や家庭環境などさまざまな課題を抱えている生徒、自分に自信をもてず自己肯定感の低い生徒も多く、進路選択や将来の目標設定においても消極的になりがちで、明確な意志をもてない生徒が少なくないという現実もある。高校3年間を通してこうした生徒たちの意識をいかに変え、自らの手で未来を拓いていくける状態にもっていくかが、進路指導のテーマとなっている。



進路指導部主任（主幹教諭）
前田和也先生

○進路状況（2021年3月実績）

大学進学52人、短大進学15人、専門学校進学92人、就職67人、その他（受験準備など）7人

大学進学者のうち半数強が学校推薦型選抜を利用。一般選抜、総合型選抜はいずれも2割前後となっており、進学先も受験方式も多様化が進んでいる。

○School Data

1973年開校／普通科／生徒数679人（男子351人・女子328人）

ツール1 インターンシップの事前学習資料(事業所理解・自己理解)

ダウンロード可

 事業所理解を深めよう		自分なりに当日の流れなどをイメージし、書き込んでみよう。 全部書けたら同じ事業所のメンバーへお見せ合おう。	
①事業の内容は? (○をつけよう)	建設業・製造業・情報通信業・運輸業・卸売・小売業 金融・保険・不動産業・飲食・宿泊業・医療・福祉業 教育・学習支援業・サービス業・公務員		
	②主な仕事内容を想像すると (担当するお客様はどんな人が多いそうか)		
	③一日の仕事の流れを想像すると 		
時 分 出社・午前の仕事は 例：会議室で資料作成			
次の項目から自分の長所を探そう 付け合わせたら、今回のインターンシップで生かせる長所を考えよう。			
④この仕事に必要な資格・免許は 			
⑤この仕事に就くまでの高校卒業後のルートは (ルート図を書いてみよう)			
⑥この職業に必要となる資格 (自動車免許、看護士、薬剤師、税理士、会計士、看護介護福祉士、美容師、保健士、司書など)			
⑦この職業に必要な技術は (能力、集中力、知識、コミュニケーション能力、柔軟性、柔軟用意、余裕など)			
⑧仕事の前に音楽聞いて気をつけることは 			
⑨仕事の前に朝度で注意することは 			
⑩事後やけがをしない・ささないために注意するは 			
1. 指導力がある 2. 協調性がある 3. 重視 4. 大胆 5. 凡庸面 6. 我慢強い 7. 貴賎 8. 物知り 9. 審美的 10. 自主的 11. 世話を好き 12. 約束を守る 13. 理屈的 14. 魅惑 15. 運営 16. 真面目 17. 懇やか 18. 親切 19. 冷静 20. 社交的 21. 体力がある 22. 信念がある 23. アイデアが豊富 24. 徒歩的 25. 落ち着きがある 26. 累積強い 27. 健康 28. エネルギッシュ 29. ユニークがある 30. シャイニング精神がある 31. 公正 32. 優しい 33. 信頼 34. 集中力がある 35. 心がひろい 36. 視聴みやすい 37. さっぱりしている 38. 積極的 39. 著直 40. 気氛知らない 41. しっかりしている 42. 責任感がある 43. 礼儀正しい 44. 正直 45. 個性的 46. 説得力がある 47. 借りになる 48. 力力家 49. 一生懸命 50. 思いやりがある 51. 頑かく 52. 受感性が豊か 53. 決断力がある 54. 気配りができる 55. ひきこも 56. かみえき 57. しゃべりいい 58. センスが良い 59. 好奇心が旺盛 60. 適応力がある			
○に付けていた中で、今回のインターンシップに生かせそうな長所はどれか、考えてみよう。			
			

インターンシップの事前指導では、敬語の使い方や事業所への依頼方法、電話や事前訪問の練習などを細部まで丁寧に指導。事業所理解と並行して、自己理解も深めていく。前田先生の手元には、生徒配布用の資料データが蓄積されている。

ツール2 インターンシップの事後学習資料(札状の書き方)

ダウンロード可

事後指導は礼状の書き方から始まり、発表用の資料・レジュメ作成や発表のノウハウなども指導する。礼状にはインターンシップ中の気づきや前後の変化、進路にどう役立ちそうかなどを書くように指導。礼状を書くことが、生徒のリフレクションにもつながっている。

2)の送付などはすべて生徒自身が行う
が、その後の挨拶や連絡、礼状、ツール
さらに、インター・ンシップ後には振り返り
学習を行い、3月にはインター・ンシップ体
験発表会を実施。グループごとにまとめ
資料を作成し、何をしたか、どう感じた
かを発表する。

「職業体験としてドライに済ませるので
ではなく、インター・ンシップ先の従業員の
方々から、どんなことを大切にしている
か、どんな変なことがあるか、やりがい
は何か、といった部分まで吸収してほしい
と期待しています。生徒の発表や資料を

見ていると、それぞれいろいろなことを感じたり気づいたりしているのが伝わってく
るので、失敗も含めていい経験になつてい
ると思います」

**生徒の情報を「全方位」から
集め、進路指導につなげる**

2年次には、分野別の進路ガイダンスや面談の実施、看護や介護などの体験会やオープニングキャンパスへの参加呼びかけなどを通して、生徒が自分自身の進路について深めていくようサポートする。学年全体を対象にしたガイダンスも行つて

報が抜け落ちてしまふ生徒が多いので、就職希望者には基本的にマンツーマン指導進学希望者に対してもできるだけ少人数に絞つて話をしています。1回と言えばわかる、任せておいたら自主的に動く：という生徒たちではないので、私たち教員がもう無理だと諦めてしまったら救いようがありません。気づきのタイミング

こうした姿勢は、前田先生や進路指導部の教員のみならず、学校全体に浸透している。同校が掲げる「全方位型の進路指導」には、「生徒の全方位に広がる多様な進路に対応した進路指導」という意味に加えて、もう一つの意味が込められているのだ。

いるが、多様な生徒の進路希望に対応するため、個々に向けた指導を最重要視しているといふ。

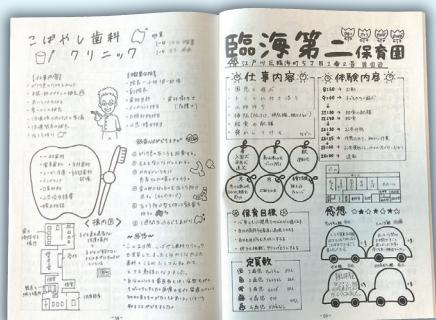
や変化のきっかけは生徒それぞれ。何度も何度も根気強く声をかける、イレギュラーなケースにもその都度対応するとい

「生徒を全方位から見る、生徒の情報を全方向から集めて進路に結びつける…」という意味合いも込めています。進路指導のヒントはどう転がっているかわかりません。そして、生徒に関する情報をいかにたくさんもつていいかで、進路指導の質は大きく変わってきます。とはいっても教員一人では限界があります。普段の生活や授業中、部活動といったさまざまなシーンで、担任や教科担当、部活の顧問などいろんな先生が多様な切り口で一人ひとりの生徒を見て、情報をストックしていく。そして、教員間で共有する。「あの子が部活でこんなこと言っていたよ」という情報が、ヒントになり得るのです。そのためには各教員の姿勢や情報を収集するアンテナの感度、そして教員間のコミュニケーションが大事になってしまいます。それが部活でできているのが本校の最大の強みだと思います」



インターンシップ体験発表会の様子。生徒を班に分けて複数の教室で行うHR発表会の後に、代表者が1年生全員の前で行う全体発表会を実施する。

指導のヒントはどう転がっているかわかりません。そして、生徒に関する情報をいかにたくさんもつていいかで、進路指導の質は大きく変わっています。とはいっても教員一人では限界があります。普段の生活や授業中、部活動といったさまざまなシーンで、担任や教科担当、部活の顧問などいろんな先生が多様な切り口で一人ひとりの生徒を見て、情報をストックしていく。そして、教員間で共有する。「あの子が部活でこんなこと言っていたよ」という情報が、ヒントになり得るのです。そのためには各教員の姿勢や情報を収集するアンテナの感度、そして教員間のコミュニケーションが大事になってしまいます。それが部活でできているのが本校の最大の強みだと思います」



グループごとに作成した発表用資料は、実習記録や礼状などと合わせて文集としてまとめている。

生徒に問い合わせることで、 進路選択の理由を深掘りする

やりたいことや憧れの職業があつても、「なんなく」で思考が止まっている生徒も多い。「それいね」と教師が肯定するのは簡単だが、安易な選択は就職後、進学後のミスマッチにつながりかねない」と前田先生。大事にしているのが、生徒への問い合わせだ。

「どうしてその分野学校がいいと思ったのか、その仕事に就きたいと思ったきっかけは何か、具体的にどんなところに魅力を感じているか、その進路に向けてどんな準備をしているか、その学校に入ったら・その仕事に就いたら、どんなことがしたいか、将来はどうなっていきたいか…とにかく根掘り葉掘り突っ込んで聞いていきます。最初は曖昧でも、問い合わせられることで生徒自身が考えるようになり、少しづつ思考が深まっていきます。就職

生徒が教員を選べるようにしている。「話しゃしい先生だけでなく、あえて苦手な先生にも面接指導をお願いするといよ」と前田先生はアドバイスしているとう。

「国語の先生が放課後に小論文対策をしてくれたり、看護系に進みたい生徒のフォローを数学の先生がしてくれたり、漠然と養護教員になりたいと言っていた生徒を養護の先生が『弟子』にしてくれたりと、先生方の熱意に依存している部分が大きいですね。大変ありがたいことです。が、公立高校の教員には異動がありますから、人が代わっても指導が継続するシステムを進路指導部として作っていく必要があると感じています」

高校での3年間が終われば、生徒たちはそれぞれの道を歩いていく。「高校を卒業して次のステージに進んだら終わりではない」と前田先生。「生徒の人生はずっと続いていく。5年後、10年後に幸せを感じられているか、楽しく充実した日々を送っているか、先を見据えた進路指導をする必要がある」と締め括った。

の入社試験はもとより、近年は大学入試でもプロセスが重視されるようになってきていて、志望理由や今後の目標は就職にせよ進学にせよ直接では必ず聞かれます。その対策のためにも不可欠なプロセスだと考えています」

成果と課題

「キャリア教育優良学校」に選定！ 教科との連携、探究の進化が課題

進路指導に対する意識が高い教員が多いのが葛西南高校の特長だが、その背景には前田先生はじめ進路指導部の努力もある。

かつて進路指導部内では進路別の分担制をとっていたが、全員で情報や業務を共有する方向へと転換。さらに、「情報があつても使われなければ意味がない」と考えた前田先生は、進路関係の資料やデータを教員が見やすく使いやすいよう整備し、進路指導部の取組についても積極的に発信していく。その結果、教員間の連携は以前に増して進み、

生徒の進路をみんなで考えようという空気も醸成されていった。こうした成果が評価され、「令和元年度第13回キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受賞した。

一方、課題もある。「今後、開拓しないといけないのが2年次の取組。3年生に向けて進路を決めていく時期的重要性をどう生徒たちに伝えるか、より詰めていく必要がある」と述べる。また、進路指導・キャリア教育と教科指導との連携強化、総合的な探究の時間の進化にも挑戦したいという。

「探究については、外部と連携してやってみたいと思っています。生徒を知る私たち教員がプログラムを考えると、うちの生徒ができるのはこれくらいだろうと、無意識のうちに天井を作ってしまうんですね。生徒の可能性を広げるためにも、新しい視点を入れながら挑戦したいと思っています」